

連載

志茂田景樹

第 26 回

ことばの持つ力

「よいこに読み聞かせ隊」

隊長旅日記

117ポプラワールド

読み聞かせイベントで唯一常設のものは「よいこに読み聞かせ隊・ポプラワールド」です。

毎月第3水曜日の14時から15時30分まで、都内の新宿区にある文芸出版社ポプラ社の1階ホールで行っています。参加者はウイークデーの昼下がりなので、就園前の3才児以下の乳幼児を連れたいお母さん方が殆どなのですが、お独りでこられる人や、お孫さんを連れてこられる高齢の方もいます。

ときには場違いのように若いカップルも現れて、童心に還って楽しんでくれます。そういうカップルの女性のほうが何年か経って、ベビーカーにゼロ歳児を乗せて現れたこともありました。

シングルマザーではありませんよ。

「あれからすぐに結婚しました。小さな子どもたちがとてもものびのびと楽しんでいる姿を見て、自分たちの子が欲しくなったのです」



氏名

志茂田 景樹

生年月日

1940年3月25日

出身

静岡県

身長

178センチ 体重61キロ

血液型

A型 星座 牡羊座

最終学歴

中央大学法学部

職業

絵本作家・児童書作家

肩書き

小説作家・読み聞かせ隊長
よいこに読み聞かせ隊 隊長

休日だったらお父さんもきてくれたはずです。

「よいこに読み聞かせ隊」の読み聞かせ&講演活動は全国各地で展開していますが、地方が続いて第3水曜日にここへくると、ホッとします。月1回でも常設の会場があると、我が家に戻った感覚になるのでしょうかね。

このポプラワールドのことは、以前にもこのページで紹介させていただいたことがあるので、覚えておいでの方も多いと思います。

徐々に第117回を数えたポプラワールドのエピソードを聞いて下さい。

ポプラワールドは台風の襲来や、東日本大震災、その他の都合で何回か翌月に順延させてもらったことがあります。中止ではなく順延なので117回という回数は実際に行った回数です。「よいこに読み聞かせ隊」が結成されたのが1999年、ポプラワールドの開始が2003年ですから、それからでも11年が経っています。

そうか、もうそんなになるのか、と自分の思いにうなずきながらポプラ社のホールの扉を開けた僕を2つのサプライズが待っていてくれました。

サプライズの1つは、知育絵本「えほんのき」シリーズなどで知られる人気絵本作家の塚本やすしさんが、まだ製本されていない絵本の試し刷りの絵を手に飛び入りで読み聞かせをしてくれたことでした。

11月30日発売予定の「やきぎかなののろい」という作品で、ゼロ歳児も目を輝かせて絵に見入っていました。今の子供達はあまり丸ごとの焼き魚を食べません。切り身を魚と思い込んでいる子供もいて、水族館で引率の先生が引率してきた園児たちに、

「これがこの前、お昼にいただいたサバよ」

と説明するとびつくりする園児が何人か必ずいるようです。

この「やきぎかなののろい」は楽しい物語なので、これを読み聞かせれば子どもたちが丸ごと焼いたイワシや、サンマを好きになってくれるかもしれません。

もう1つのサプライズは、メンバーで、ソプラノ歌手の五月女淳子さんが友人のハープ奏者の中川ひとみさんを同伴



117 ポプラワールド 大型絵本

してきたことでした。ハープの音色がポプラワールドに響き渡ったのは初めてでした。

3歳前後の子どもたちは演奏が終わるとハープの周りに集まって弦をいじり音を出して大喜びでした。音楽家は他人に自分の楽器をいじられるのを好まないものですが、

「いいですよ。差し支えないものを持ってきましたので」と、笑っていました。

服で言えば普段着ですから、どうぞ、ということでしょう。しかし、普段着のハープにしては王侯貴族のようなオーラを放っていました。

お言葉に甘えて僕も弾いてみました。うーん、変な音が出た。やはり、このハープは人をみているらしい。

とにかく、117ポプラワールドは、楽しかったです。

来月は1118。えっ、いいや、これはいけません。みんな（いいやつ）でいきます。



ハープ奏者の中川ひとみさん